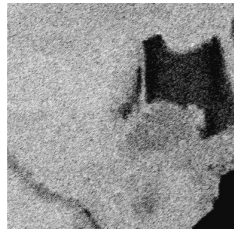


現代におけるサッカー・エンブレムデザインの在り方



Name 織田 健太郎 / Kentaro Oda

High School

Comment

Graduation Thesis

1 背景・目的

サッカーチームのエンブレムは、盾、円、楕円といった形を基本に、チームのアイデンティティを表現するモチーフやチームを意味する文字、華々しい装飾などで構成された複雑且つ個性的なデザインのものがある。

しかし近年急速にデジタル化が進み、小さな画面上でデザインを目にする機会が増えたことにより、これらのエンブレムデザインにも変化が見られるようになった。デザイン変更を発表したチームの中には、チームを表す具体的なモチーフや使用する色数を大幅に削り、チームの頭文字のシルエットのみをそのままエンブレムにしたものもあった。

画面上で見やすいビジュアルとなり、どこか現代感も感じさせるデザイン変更であったが、インターネット上での評価は賛否両論であった。

このように、現代のサッカー・エンブレムは様々な要素が求められている。このことを踏まえ本研究では、事前調査や架空チームのエンブレム制作、検証を行うことで現代におけるサッカー・エンブレムデザインの在り方について考察した。

2 事前調査

はじめに既存のエンブレムに関して調査を行った。まず、日本のプロサッカーリーグであるJリーグに所属する58チームのエンブレムについて調べた(調査①)。Jリーグのエンブレムは、2色～9色で構成されており、特に3、4色の組み合わせから成るものが多かった。また、チームカラーはほとんどのチームのエンブレムに含まれていた。

調査①より、これらのエンブレムには「縁取りがされている」、「文字や言葉が含まれている」、「エンブレムのシルエットが左右対称である」などの共通項が存在することがわかった。

次に、イタリアのプロサッカーリーグ「セリエA」の20チームのエンブレムを用いて調査した(調査②)。チーム名を伏せた20個のエンブレムを提示し、最も好みであるものと、最も好みではないものの2つを選んでもらった。それぞれ選んだものについて、5つの評価項目で5段階の印象評価を行なった。項目は「単純-複雑」、「地味-派手」、「現代的-古典的」、「力強い-弱々しい」、「格好良い-格好悪い」である。

調査②の結果、特に「単純-複雑」、「現代的-古典的」の項目がエンブレムの好みに影響し

ていると考えられた。特に、単純過ぎるものは「好みではない」として選ばれる傾向にあった。

また、プロサッカーチームのサポーターを対象に「自分が応援するチームのエンブレムデザインにおいて重要視する要素」についてアンケート調査を行なった(調査③)。

調査③の結果、サポーターが最もエンブレムデザインに求める要素は「クラブの歴史や地域のアイデンティティを表現したデザイン」であることがわかった。

3 エンブレム制作

事前調査で得られた結果を参考に、架空のプロサッカーチーム「FCクレノーレ新浜」のエンブレムを制作した。「単純-複雑」、「現代的-古典的」、「アイデンティティ」の要素を5段階に分けた5つのデザイン案を制作した(図1)。

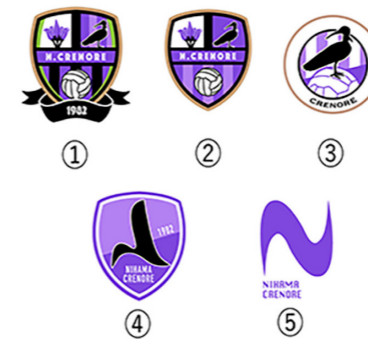


図1 制作した5つのエンブレム

検証では、「単純-複雑」、「現代的-古典的」、「アイデンティティを感じられるか」について5段階の印象評価を行なった。また、FCクレノーレ新浜のエンブレムとして、どの案が相応しいかを選んでもらい、選んだ理由についても記述してもらった。画面上での見づらさがないよう

にデザインしながらも、地域のアイデンティティをデザイン要素としてしっかり含めた3番、4番のデザイン案が選ばれることが狙いであった。

結果として、事前の想定通り最も「FCクレノーレ新浜のエンブレムに相応しい」として票を集めたのは3番のデザイン案であった。印象評価においても、評価の平均値は「単純-複雑」の中間ほどであり、クラブや地域のアイデンティティは程よく感じられるという評価であった。

また、3番を選んだ理由として、「現代的かつホームタウンの特色を捉えているから」、「既存のエンブレムの特徴をある程度残しつつ、分かりやすい形になっているから」などの意見が挙がっていた。

4 結論

最後に、事前調査と制作・検証を踏まえた結論を述べる。エンブレムデザインでは、単純過ぎるものは「クラブ・地域のアイデンティティ」を全く感じられず、サポーターからも好まれることはないといえる。画面上で見やすいようシンプルで要素の少ないデザインにしつつも、チームの特色を表す要素を1つは残し、アイデンティティをしっかりと表現することが、現代におけるサッカー・エンブレムデザインの在り方であると筆者は考える。